

庶民のまち、大阪にふさわしい 府政・大阪市政を

立場こえ、この声を一つに——明るい会がよびかけ

11月22日投票の大坂府知事・市長ダブル選挙。その焦点は、どこにあるでしょうか。それは5月の「住民投票」で発揮した「オール大阪」の共同の力で、「維新政治」に終止符を打ち、くらしを守り、府民の声で動く府政・大阪市政をとりもどすことです。



「大阪市つぶし」(都構想) にきっぱり審判——「住民投票」

5月の「住民投票」で、「大阪市つぶし」の「大阪都」構想に審判が下りました。それは暮らし切り捨て、住吉市民病院つぶしなど、府や市の責任を放棄する「維新政治」そのもののへの痛打でした。

橋下市長は「政界引退」まで表明しました。ところが、いまになってまた「大阪都」に再挑戦するといいます。「民意より、自分らの方が上」——とんでもないことです。



(毎日 5月18日)

「反維新」の流れ広がる ——衛星都市でくらし守る政治も

2013年の堺市長選挙で「反維新」の竹山修身市長が勝利して以後、岸和田・貝塚・豊中・泉南・吹田・八尾・寝屋川の各市で「維新」を打ち破る市政が誕生。堺や貝塚では、国民健康保険料を大幅に引き下げ、岸和田、貝塚では公立病院を守り、オスプレイの八尾空港配備に断固反対するなど、「維新政治」とは一線を画す流れが広がっています。



民主主義をとりもどす ——立ち上がる若者たち

安倍政権の憲法と平和、立憲主義の破壊は許せないと立ち上がる日本の若者たち。

大阪では5月の「住民投票」でも、若者たちが「維新政治ノー」「民主主義を守れ」と先頭に立ちました。



府政を府民にとりもどし、大阪経済とくらし、福祉を守ろう

- 子どもの医療費助成は府が小学校卒業まで。市町村の努力で高校卒業まで引き上げよう
- 国民健康保険料、介護保険料の軽減へ、市町村をささえる府からの補助金のアップを
- 「ブラック企業」「ブラックバイト」を規制する大阪府の条例をつくり、人間らしく働ける大阪へ
- 「カジノより、くらしと中小企業」——大阪経済の主役、中小企業を本気で支援する府政へ
- 危険な旧WTC庁舎は撤退。南海トラフ地震や津波対策を強化し、安全・安心の大阪を